

## 日本映画衛星放送株式会社 第 21 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成 22 年 6 月 8 日 (火) 16 時 ~ 17 時
2. 開催場所 : 東京都江東区青海 2 - 4 - 2 4  
株式会社ジェイ・スポーツ・ブロードキャスティング内 大会議室
3. 委員の出席 : 委員総数 7 名 / 出席委員数 7 名  
出席委員の氏名 (敬称略); 今村昭 (石上三登志)・菊地実・坂井保之・曽根和子・田保橋淳・  
鳥居美砂・西正  
放送事業者側出席者氏名 ; 常務取締役 酒井彰  
編成部部长 宮川朋之・編成部マネージャー 秋永全徳  
番審担当 高岡幸代 (記)

4. 議題 : 日本映画専門チャンネルオリジナル番組  
「東京映画散策 ~ 銀幕に見る失われた昭和の風景 ~」について

### 5. 議題の概要 :

昭和 20 年代後半から 30 年代にかけて東京の各所を舞台に撮影され、当時の風景や風俗を懐かしく見ることができる名画たちの舞台となったロケ地を“散策”する番組「東京映画散策 ~ 銀幕に見る失われた昭和の風景 ~」を制作、放送した。単にオールドファン向けの企画としてだけでなく、視聴者の方々へ新たな映画の見方を提案するという意図も込められている。

本企画を中心に、編成のあり方、番組のあり方について審議を行う。

事前に「東京映画散策」~ 洗練の銀座から猥雑の新宿まで ~、「東京映画散策」~ 人情の浅草から芝の東京タワーまで ~ の VTR を送付し、ご視聴いただいたうえで審議を行った。

### 6. 審議内容 :

#### < 審議委員意見 >

- ・ 監督や俳優の特集はあるが、こういう切り口もあるのかと驚いた。これだけでも充分独立した番組として楽しんだ。色々な看板が出ているので、地上波では放送しにくいと思った。専門チャンネルの強みとして、地上波では出来ないような番組を放送して欲しい。
- ・ 今の地図が出て、その辺りをポイントしていたので入りやすかった。昔の東京の景色を知らないの、比べてどうこうという思い入れはなかったが、東京の方がご覧になれば、より思い入れがあったのではないだろうか。
- ・ 最近、散策番組がたくさん放送されている。番組としても、非常に良く出来ていて面白い。映画という軸で大変ユニークで良い。出演者の組み合わせも面白いし、良い企画である。映画を見る事により人間の営みを実感出来る。映像の力、現在と比較できる企画の力だと思う。
- ・ とても楽しく見た。番組の作りも出演者も丁寧で心がこもっている。一生懸命作っているのが感じられて、とても良い番組である。見ていると勉強にもなるし、日本の良いところが伝わる。

心温まる非常に良いイメージを持っているが、今回は特に思った。

- ・ 地図の出し方が不親切である。見取り図を出すとか何かすればよいのではないだろうか。東京というのは、シンボリックな人間のいた場所である。それをピックアップしている。それによってこの番組で紹介された映画を見てみようという視聴者は思うだろう。面白く見た。
- ・ 監督、俳優、色々なテーマがあるが「東京」というのは非常に新鮮である。新しいテーマで違う視点でみると違ったので感心した。専門チャンネルは、独自の番組を持つ事が大事であるが、もう少し違う作り方もあるのではないか。
- ・ 昔から気付いていたが、ドキュメンタリーと違う過去の記録は結構ある。懐かしい気持ちは勿論あるが、懐かしさだけでは困るのではないか。という気がする。結果として、そういう素材になっていたものを改めて日本文化的に伝えるのは、もっと別な素材が必要なような気がする。とても貴重な出発点であると思う。

#### <事業者回答>

- ・ 映画の本質は、扱っていない企画である。何が映っているか、こういうのが映っていて面白いと思ったが、本当にそれが映画チャンネルの企画として良いのか？という思いが多少ない訳ではない。映画の本質としてどうかという事だけではなく、そこからもう一つ展開したところに、企画みたいなものを、ときにはやっても良いのではないだろうかと思った。
- ・ 映画を見てもらうための番組ではあるが、この番組だけで完結している。映画を見なくとも、この番組だけ見ればそれで良いのかとなると、やっている事がなんだろうと非常に思う。今回のような切り口であれば、未ビデオ化作品にもスポットを当てる事が出来るので、この企画はあるのかなと思った。
- ・ 私達はその当時の時代を知らないが、今回番組を作るにあたり、勉強やリサーチをして非常に面白かった。時代は変わっているが、実際にそこに行ってみて楽しかった。映画には、その時代が封じ込まれている。

#### 7. その他の参考事項：特になし

以 上